

■南一郎平 治水事業家。庄屋としての工事契機に、維新政府の官僚となり、安積疎水・琵琶湖疎水などの建設を指揮した。
みなみいちろべい
・ ・ ・ ・ ・ 1836＝ 豊前国宇佐郡金屋で、庄屋南市郎兵衛(宗保)の一人息子に生まれる。
大塩平八郎乱1837＝ 1歳：

阿部正弘 首座1845＝ 9歳：

数十年前から、地元では駅館川右岸の台地上に広がる宇佐平野への灌漑水路“広瀬井出”の建設が3度にわたって試みられたが、トンネル掘削を含む難工事のため、未完に終わっていた。

万次郎帰国・ 1852＝16歳：結婚。
ペリー来航・ 1853＝17歳：
開国開港・ ・ 1854＝18歳：
父が西国筋郡代塩谷大四郎に協力して、3度目の工事に関わるが、
松下村塾・ ・ 1856＝20歳：父が死去。広瀬井出の完成を遺言され、

桜田門外変・ 1860＝24歳：
遣欧使節・ ・ 1861＝25歳：広瀬井出工事再興を決意して、同志に図り、4回目の工事を目指す、
生麦事件・ ・ 1862＝26歳：着手に至らず断念。
8月18日政変 1863＝27歳：
禁門の変・ ・ 1864＝28歳：日田の豪商広瀬久兵衛に懇願して資金援助を取り付け、
薩摩藩土密航1865＝29歳：5回目の起業にこぎつける。しかし、難工事のため工費は不足し、
薩長同盟・ ・ 1866＝30歳：宇佐を治めていた島原藩に“井出切手”の発行を請願して許可されるも、両替困難により、藩の公金を借用、

明治維新・ ・ 1868＝32歳：返済できずに入牢するも、御許騒動で助かる。
戊辰戦争終・ 1869＝33歳：ついに工費が底をつき、明治新政府の長崎総監府に援助を直訴。総監府から調査を命じられた日田県知事
松 方正義が水路の巡察を行い、国の直営工事の許可が下りる。
初の日刊新聞1870＝34歳：水路が通水に至ると国の援助も終了したため、残りの工事には私財を投じ、
学問のすすめ1872＝36歳：
明治6年政変 1873＝37歳：*ついに“広瀬井出”を完成。工事中に知遇を得た松方正義の招聘で、
佐賀の乱・ ・ 1874＝38歳：井手の権利や管理は地元任せ、妻子を残して、上京、内務省農務課に勤務。
この間、近所の人たちが金を出し合って、貧しかった妻子の生活を支えてくれる。
三つの反乱・ 1876＝40歳：補勸業寮十一等で出仕、全国各地に水利開墾事業を興すべく適地調査に派遣され、
西南戦争・ ・ 1877＝41歳：事務取扱として内務属勸農局、
大久保暗殺・ 1878＝42歳：*安積疎水工事着工準備担当となり、以降、現地で指揮、

・ ・ ・ ・ ・ 1880＝44歳：会計局と兼務で等査課、
明治14年政変1881＝45歳：安積疎水掛となる。北垣国道京都府知事から、琵琶湖疎水計画の実地調査を依頼され、
新体詩抄・ ・ 1882＝46歳：琵琶湖疎水の詳細な「意見書」と「水利目論見書」を提出し、これをもとに工事が実施される。
岩倉具視没・ 1883＝47歳：続いて、那須疎水開削のための測量を実施、
秩父事件・ ・ 1884＝48歳：疎水掛長、任農商務と内務勸少書記官、猪苗代湖疎水工費主務、土木局権少書記官、
内閣発足・ ・ 1885＝49歳：土木局第一部長就任。各地疎水工事には、“広瀬井出”工事にあたった児島組などの技術者を招くとともに、トンネル工事で経験を積み、
帝国大学始・ 1886＝50歳：鉄道局鉄道事務官に移ると、*退官し、十和田市三本木開拓者の新渡戸伝の孫の七郎(稲造の兄)とともに、トンネル工事を専門とする建設会社{現業社}を設立。鉄道事業に関わるようになり、直江津線の妙高トンネルを完成し、
初の対等条約1888＝52歳：広瀬水路等自費竣工の功績で、藍綬褒章。直江津～長野間が開通、名を上げるが、
帝国憲法発布1889＝53歳：*御殿場線の箱根のトンネルでは古い技術での工法に頼ったことで工費が大きく超過して社業に響き、それ以後は{現業社}の表面上の名義人として関わるにとどまる。
帝国議会始・ 1890＝54歳：クリスチャンになる。
郡司千島探検1893＝56歳：碓氷峠トンネル完成で、軽井沢～横川間も開通。
日清戦争始・ 1894＝57歳：

Bushidou・ ・ 1899＝63歳：尚と改名。

日露戦争終・ 1905＝69歳：

アラビヤ創刊・ 1908＝72歳：
晩年、東京府武蔵野村に在住し素封家となる。家は洋館の建つ屋敷で、一万坪の広い敷地は三方が土手を形成し、東にテニスコートがあったが、杉山があり暗かったために近所の子供たちからお化け屋敷と呼ばれていた。 白い顎鬚を生やし、村の年寄りを呼んでご馳走したという。

明治天皇没・ 1912＝76歳：

ロシア革命・ 1917＝81歳：
ベルサイユ条約・ 1919＝83歳：没した。
死去後、郷里の宇佐神宮境内に頌徳碑が建立された。一族に陸軍大将南次郎がいる。